

旅行プラン作成支援ツール CT-Planner の プラットフォーム化に向けて

倉田陽平 首都大学東京 大学院都市環境科学研究科
原辰徳 東京大学 人工物工学研究センター

キーワード：旅行プラン作成支援、クラウドソーシング、プラットフォーム

【はじめに】旅のプランをあれこれ考えるのは心躍る作業である。だが、大都市や不慣れな土地においては、「自分のプランは見所を網羅しきれているのだろうか」「時間配分は妥当だろうか」「予定訪問先はみな営業しているだろうか？」などの不安がつきまといがちである。そこで筆者らは、個人旅行者、とくに訪日外国人旅行者を対象に、数時間～一日程度の街歩きプランづくりをサポートする対話的な Web サービス「CT-Planner」を開発してきた。最新版の CT-Planner 5 (図 1; <http://ctplanner.jp/ctp5>) では、徒歩と公共交通とを併用したプランを作成できるようになり、交通手段の利用が前提となる広範囲観光地でも実用に耐えうるものとなった[1]。

現在、CT-Planner 5 は函館・横浜・浅草・臨海副都心の 4 地区に対応している。今後は対応地区を全国に拡大していくため、観光地データの作成者を全国各地から募ることを構想している。しかし現在、CT-Planner 5 に観光地データを追加するには、Excel テンプレートに観光地データを入力し、マクロを数～数十分動かして OD 表を生成し、その結果をサーバへアップロードする必要がある[1]。この作業は半自動ながら、初心者にとってはハードル感があるのは否めない。そこで本発表では、観光地データ作成をクラウドソーシングによって加速化させ、あわせて CT-Planner をプラットフォームとした多主体による旅行プランニング支援サービスを実現するための構想 TriPla (=Trip Planning Platform by Various Players) について述べる。図 2 は、新システムの全体イメージを示したものである。このシステムでは、現在の CT-Planner のサービスを継承する「一般ユーザ向けサイト」に加えて、観光地データの作成／編集・分析を Web 上から行える「データ提供者向けサイト」が用意されている。

【データの作成】観光地データの作成・編集を Web 上から行えるサイト「CT-Planner Data Editor」を提供する。参加者が観光地データを効率良く作成できるようにする工夫として、個々の観光資源のデータは再利用可能なものとし、観光地データは地域・テーマに応じて適切な観光資源を組み合わせたもの（パッケージ）として構成する。たとえば、別々の人が作った「台東区データ」「隅田川エリアデータ」に、共通の「浅草寺」データが登場できるようにする。また、多様性を担保するため、観光資源のデータは必要に応じパッケージ内で修正（上書き）を行えるようにする。もし未登録の観光資源を自分の観光地パッケージ内に登場させたい場合は、各自、その観光資源データの作成を行えるものとする。作成したデータについては、他の利用者からフィードバックを行える仕組みを用意し、質の向上を促していきたい。

【参加を動機づける仕掛け】CT-Planner の利用ログをアクセス元 IP アドレスとあわせて分析すれば、各観光資源の人気度合い、好まれるプランの長さや時間帯、利用者の嗜好プロファイルの傾向といった情報を各国・各地域別に得ることができる。このような情報は観光関連事業者や

地域在住者にとって各発地の観光客に対しどのような観光情報や旅行商品を提供すべきかを判断するための貴重な材料となるはずである[1]。そこで、このような分析を Web 上から簡易に実施可能とするツール「CT-Planner Log Analyzer」をデータ作成者向けに用意し、参加特典とすることで、彼らの参加モチベーションを高めていく。

【他主体によるサービスへの組み込み】現在の CT-Planner は独立した Web サービスであるが、今後は他の観光関連 Web サービスとの連携を深めていきたい。たとえば、既存の観光協会の Web ページ内に掲載された「モデルコース」の下に「このコースをカスタマイズ」と書かれたボタンを追加してもらい、それを押すと CT-Planner 上で自分好みに編集できるようなイメージを有している。このような連携を実現する機構として、リンク方式（CT-Planner のメインサイトに飛んできて、そこでプランを編集してもらう方式）と API 方式（CT-Planner のプラン作成エンジンに直接アクセスしてもらい、プラン生成結果のみを JSON データないしは地図画像として返す方式）の二段階を構想している。前者は観光協会や観光関連事業者などによる、既存サイトを活用した簡便な利用を想定し、後者は独自のサービスを作成したい IT 企業などによる利用を想定している。このような仕組みを提供することで、CT-Planner を基盤とした多様な観光情報サービスの出現を促していきたい。

【人的ネットワークの構築】CT-Planner を基盤とする旅行プラン作成支援サービスの拡大を促していくためには、上記のツールセットをただ用意するだけではなく、それを支える人々のネットワークづくりについても考えねばならない。そこで、我々は大学・観光関連事業者・IT 事業者・ならびに地域の有志を交えた「TriPla コンソーシアム」の形成を構想中である。



図 1。 CT-Planner5 の画面写真

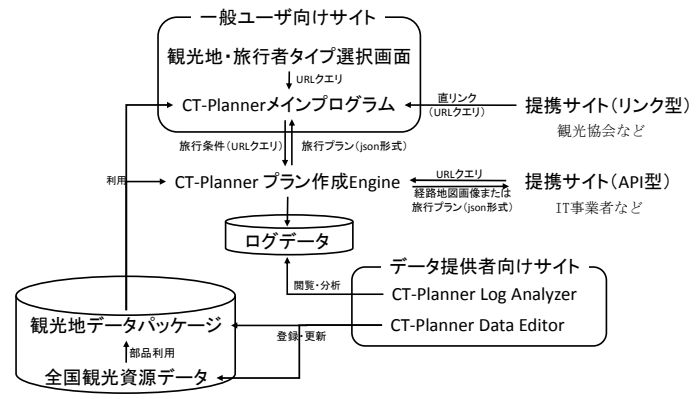


図 2。 プラットフォーム構想図

【謝辞】本研究は、JST 問題解決型サービス科学研究開発プログラム採択プロジェクト「顧客経験と設計生産活動の解明による顧客参加型のサービス構成支援法～観光サービスにおけるツアー設計プロセスの高度化を例として～」の成果を発展させたものである。

【参考文献】

[1] 倉田陽平・原辰徳 (2014) インターネット上での対話的旅行プラン作成支援サービスとその展開可能性. サービス学会第 2 回国内大会, 191-194, 函館.